

千代谷 真理（弘前大学医学部附属病院）

私は平成 22 年に弘前大学を卒業し、現在は弘前大学医学部附属病院で心臓血管外科医として日々診療業務に携わっています。この度、distal bypass WSに参加したことをきっかけにして、血管外科手術について学ぶため 2017 年 10 月 6 日から 21 日までドイツへ短期留学に行く機会をいただきましたのでご報告いたします。

今回はエルランゲン大学とカールスルーエ市立病院の 2 施設を 1 週間ずつ訪問しました。今回の訪問では、できる限り多くを吸収して帰りたいという抱負はもちろんありましたが、特に頸動脈内膜摘除術は、日本では経験できる症例数に限りがあるため、頸動脈内膜摘除術をたくさん見たいというのが、今回の研修において私の中で決めた一つの大きなテーマでした。実際に 2 週間という短期間にも関わらず両施設とも多くの頸動脈狭窄病変に対する手術を見学できました。頸動脈パッチ形成、eversion の両方を両施設で見学できたのは非常に勉強になりました。特に、カールスルーエ市立病院では頸動脈狭窄病変に対する外科手術を局所麻酔で行っており、非常に斬新でした。あらかじめ患者さんには、握ると音の出るおもちゃ？のようなものを持ってもらい、頸動脈を遮断後にこちらから患者さんへ声をかけ、患者さんに手を握って音を出してもらうことで神経障害の有無を確認していました。局所麻酔と言っても、専属で麻酔科医がついていてくれて、局所のキシロカイン投与と併用してアルチバを持続静注してくれていたため、手術をしている側としてはほとんど全身麻酔（ただし話しかければ応じる）のような感覚でした。

また、期せずしてエルランゲン、カールスルーエともに下肢バイパス後の感染創への再バイパス症例をみることができました。両施設とも鼠径部の CFA から SFA にかけての再建でしたが、エルランゲンでは牛心膜パッチをロール状に丸め、両端を Endo-GIA で一気に自動縫合して再建に使用していました。自動縫合器を使用することで、好きな長さで離断することができ、また感染にも強いと Lang 教授はおっしゃっていました。一方カールスルーエでも牛心膜パッチロールを使用していましたが、自動縫合器ではなく、PPP 糸で over and over 縫合を行っていました。連続縫合でも長さ調節を行えるように、約 2cm ごとに一旦結紮し、また続きを縫合するという工夫をされていました。

エルランゲン、カールスルーエともにハイブリッド OR ではないのですが、常に血管外科手術室内には C アームがスタンバイしており、吻合終了後は必ず確認造影を行い、吻合部やそれ以外の場所でも狭窄を疑う場合はその場で POBA やステント留置まで一気に行っていました。カールスルーエでは EVAR は普段の手術室で C アームを用いて血管外科のみで行っているようですが、TEVAR はアンギオ室で放射線科医と合同で行っていました。

また、両施設とも手洗いはアルコール消毒のみであり、患者さんの入れ替えも非常にスムーズかつ迅速です。そのため、手術間の待ち時間がほとんど無く、限られた時間で数多くの手術をこなせている要因であると感じました。

手術以外のことに関して述べますと、エルランゲン大学は私が訪れた際には回収工事中であり、仮通路などを通らなければならず内部が非常に複雑な構造になっていました。今まで訪れた先生方の研修報告にもあるように、私も例外なく院内で迷子になりました。日中は誰かスタッフの人と行動すれば良いのですが、当然ながら朝はひとりで手術室のロッカーで着替えてからカンファレンス室へ行かなければならず、また朝回診の途中で「先に手術室行っていいよ」と言われたときも OK とは言うものの、自力で手術室まで行くのが大変で、慣れるまでは必死で色んな人に道を聞いていました。しかし血管外科の先生はもちろん、看護師さんや掃除のおじさんまで、みなさん大変よくしてくれましたのでなんとかできました。3日目くらいにはだいたい分かってきて、そこまで移動には困らなくなりました。

両施設ともに数多くの手術を見学した一方で診療時間外には非常に丁寧なおもてなしをしていただきました。

エルランゲンでは Lang 先生の奥様が半日使って車でニュルンベルグの観光に連れて行ってくれました。クリスマスマーケットで有名な広場にも行きましたが、マーケットには時期が少し早かったため店は少ししか出ていませんでしたが、古い町並みを散歩したりウインドショッピングをしたり、楽しい時間を過ごしました。夜は Lang 先生も合流して夕食を御馳走になりました。

カールスルーエでは Storck 先生が夕食に連れて行ってくれ、また用事があって夕食を一緒に取れないときにもおすすめのレストランをいっぱい教えてもらい、非常に助かりました。Storck 先生の車で夜景がきれいな丘へドライブしてカールスルーエの夜景も楽しみました。

最初は慣れない海外での施設見学でどうなることかと不安いっぱいでしたが、両施設ともにみなさん大変親切にしてくださり、非常に勉強になった2週間でした。貴重な勉強をさせていただき、良い刺激もたくさん受けましたので、この経験をぜひこれからの診療にも生かしていけたらと思います。最後に、このような機会を与えてくださいました福田教授、東教授、distal bypass WS 事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。